

青少年ひろかわ

発行：青少年育成平川市民会議

令和7年度 平川市青少年健全育成市民大会

令和8年2月7日(土)、タカシン文化センターにて、令和7年度「平川市青少年健全育成市民大会」(併催：コミュニティ講座／子ども指導者育成支援研修)が開催されました。大会には約70名が参加し、市内中高生がさまざまな体験や日常生活を通して感じた意見を発表する「青少年の主張」、平川市平賀公民館職員による「市内子ども会広域活動の事例報告」と題した講演会が行われました。

今号では「青少年の主張」で発表された内容について紹介します。



「ふるさとにも歩む私の夢」 碓ヶ関中学校 2年 岸 珠奈

私が暮らしている碓ヶ関は、人口が約1,600人の自然豊かな小さなところ。山や川に囲まれて、季節ごとに違った表情を見せてくれる静かな場所で、夜には星がとともきれいに見えます。

私が通う中学校は全校生徒が25人しかいません。人数は少ないけど、みんなと仲が良く、地域の大人たちも私たちを家族のように見守ってくれる温かい環境があります。

しかし、この地域には不便なところもあります。

私が知っている中でこの地域にある店は4つほどしかなく、コンビニも夜9時には閉まっています。そして公園も1つしかなく、ブランコ、滑り台しかありません。こうした暮らしにくさが、若い人たちが地域を出ていく理由の1つになっているのかもしれない。それでも私は、この地域には魅力がたくさんあると感じています。昔は多くの作家がこの地を訪れ、作品の舞台にしたり、自然にひかれて長く滞在したりしていました。それだけ、この地域には人を引きつける美しさや雰囲気があったということです。また、地元にはいくつかの名所もあり、まだ知られていない魅力も数多く残っています。

私は、この自然豊かで歴史のある地域をもっと明るくしたいと思っています。そして、中学生の私にも、地域の未来のためにできることはあると考えています。例えば、地域の名所をパンフレットなどで紹介したり、写真映えするスポットを見つけて広めたりすることで、少しでも地域の良さを知ってもらえるかもしれません。観光客が増えれば地域への理解が深まり、人口が増えるきっかけにもなると思います。

そんな私には、将来に向けて大切にしている夢があります。それは地元で美容師として働くことです。美容師は髪を整えるだけでなく、人の心を明るくしたり、自信を持たせたりできる仕事だと思います。私は大人になったらこの地域で美容師になり、人々の笑顔を増やしたいです。美容室が増えれば、楽しみが少なくなるかもしれない場所が生まれ、若い世代にとっても過ごしやすい場所が生まれるかもしれません。さらに、高齢の方への訪問美容をしたいとも考えています。これを行うことで、地域への助けにもなるはず。

そのほかに私には、美容師になること以外にも夢があります。それは 観光名所を増やすこと、昔のように地元を賑やかにすることです。ここには、まだ観光につなげられる魅力がたくさん眠っています。自然の美しさ、歴史、作家たちが愛した風景。これらをもっと分かりやすく紹介し、散策コースを作ったり季節のイベントを企画したりすれば、外から来る人が増えると思います。名所を増やすことで、雰囲気明るくなり、お店が増えるきっかけにもなり

ます。観光客が多く来るようになれば、地域に活気が戻り昔のようにな賑やかさを取り戻せるはず。

また、将来美容師として働きながら、観光イベントとコラボしたり、名所で撮影する人のためにヘアセットを提供したりするなど、地域を盛り上げたいと考えています。小さな地域だからこそ、1つのアイデアが全体に広がりやすく、若い世代の力が大きな変化につながると思っています。

私は、自然豊かで優しさにあふれるこの地が、もっと明るく、もっと賑やかになってほしいと願っています。地域の未来は、大人だけがつくるものではありません。私たち中学生の思いも、必ず未来を変える力になると信じています。

これから私は、美容師になるという夢と、観光名所を増やす夢、そして昔のように地元を賑やかにしたいという願いを胸に、地域の未来をつくる1人としてできることを続けていきたいです。小さな場所かもしれないけれど、私のふるさとには、私がつと輝かせたい大切な場所です。今からできることを考え、行動し続けていきたいです。



「わたしの挑戦」 尾上中学校 2年 三上 仁瑚

みなさんは将来、自分がどんなことをしたいか、どんな人間になりたいかを考えたことはありませんか。

私は現在、生徒会執行部で事務局員として活動しています。主な仕事は、各行事の準備運営、あいさつの推進のために生徒玄関前であいさつ運動をしたり、よりよい学校づくりの話し合いをしたりすることです。今ではだいぶ慣れてきましたが、私は執行部に入る前は、大勢の前で発表することに不安があり、苦手意識を感じていました。学級での仕事も、自分の仕事以外はほとんどしよとせず、積極的に活動できているとは言えない状態でした。今思えば、それは「できれば失敗をしたくない」、「何かに挑戦して失敗して恥はかきたくない」という思いがあったからのような気がします。ですが、将来の自分のためにも、「このままではいけない、この現状を変えたい」と思いました。でも、具体的にどうしていいかわかからないままでした。そんなとき、文化祭での先輩方の活躍ぶりや生徒総会での様子を見て、「私もあんなふうにならきら輝いてみたい！みんなのために活動してみたい！」という思いが強くなりました。執行部に入れたら、今の自分を変えられるかもしれないと思いい、勇気を出して生徒会執行部に入りました。

実際に生徒会執行部に入ってから、積極的に仕事ができるようになりました。大勢の前で何かするのは少し緊張しますが、堂々と発表ができるようになってきました。特に、文化祭に向けての準備の際に、閉祭式でみんなで踊るダンスの振り付けを考え、全校生徒の前でレク

チャーターできたことが私の中の大きな成長の1つです。新体操部の部長でもある私の特技が役に立ったなと思えた瞬間でもありました。新体操部での活動を通して学んできたことも、今の自分には大きな影響を与えていると感じています。新体操部では、演技の完成度を高めるために意思疎通のための会話を重視します。気持ちを伝え合うことで演技の完成度も高まり、技の成功率も上がるようになりました。言葉にして伝え合うことの大切さを部活動で学びました。

執行部での活動の際にも、「わからなかったらなんでも聞いて」という言葉をかけてもらったことで、1人で思い悩むこともなくなり、誰かに頼れるようにもなりました。そして、仲間と協力して、学校生活の改善に関わる活動をしていくうちに、学校をよりよくしているという実感もわき、うれしく思いました。

私は4月から3年生になります。3年生として、受験勉強に取り組むことはもちろん、学校の最上級生として責任ある行動を心がけ、1つ1つの行動に自覚を持ち、後輩のお手本となれるよう努力しています。不安もありますが、将来を真剣に考える時期になるため、いろいろな選択肢を知り、これまでに自分と向き合う1年にもしていきたいです。

初めに、みなさんにどんな人間になりたいかを問いましたが、私は、自分の考えを自信をもって人に伝え、相手の意見も尊重できるそんな人になりたいと考えています。また、困っている人には自然と手を差し伸べられる優しさをもち、周囲の人から信頼される存在になりたいです。これまでは、自分の意見をうまく伝えられなかったり、失敗を恐れて挑戦できなかつたりしたことがたくさんありました。しかし、さまざまな経験をしたことで、以前の自分に比べて、できないことよりもできるよようになったことが増え、挑戦しようという気持ちが高まってきたのは確かです。とはいえ、自分の中の課題はまだあります。目指すべき自分の姿に少しでも近づけるように、これからも失敗を恐れずに挑戦し、一歩ずつ前に進んでいきたいと思っています。



「地域は関わり」 平賀東中学校 2年 今井 修行

皆さんは自分たちの故郷・地域についてどれくらい知っていますか。もしも他県や海外の人から故郷の良さについて質問されたときによく説明できますか。実はこのような大会に出場していながら、私はあまり自分の故郷についてくわしくありません。しかし、そのような人は私だけではなく、中学生で故郷のことについてうまく説明できないのはむしろ多数派なのではとさえ思います。では、一体なぜこのようなことが起きるのでしょうか。

その一因とされているのが『コロナ』です。コロナウイルスの感染拡大防止のために他者との関わりが減り、さらにイベントを通じた地域との関わりもなくなりました。やがてコロナが終息しても、一度途絶えたイベントに関わろうとする人はなかなか戻ってこなかったとテレビで報道されていました。私たち中学生は、小学校に入った頃から自粛生活のコロナ世代でした。自分では意識していませんでしたが、上の世代に比べて子どもの頃には家族以外と関わりが少なかったのだと思います。その結果、私たちの世代はコミュニケーションが苦手だとも言われているそうです。地域の良さを説明できないのは、地域の良さに触れる機会が少なかったことだけでなく、人に何かを伝えようとすることを避けたがるコミュニケーション能力の低さも影響しているのではないのでしょうか。

ただ、いつまでも問題を『コロナ』のせいにしても何も進みません。イベントがないなら自分たちで創ればいいのです。平川市が盛大に世界一の扇ねぶたを運行した祭りをやっていることに倣い、私たち平賀東中生も昨年度から東中祭でねぶた運行を復活させました。これは東中生同士が団結感を得ただけでなく、学区のみなさんに東中生の元

気を届けることにもつながりました。復活2年目の今年度はねぶた運行に加えてキッチンカーを呼んでより多くの方々に喜んでもらいました。もちろん、地域との関わりはこのようなイベントだけではなくては十分ではないと思います。学校の授業で先生から「勉強の内容を理解できなかったか確かめるには、そのことを自力で説明できるかどうかで判断する。」と聞いたことがあります。地域との関わりについて他県や海外の人に説明する機会を得ることで、私たちの地域への理解そのものも深まるはずです。説明することで場合によっては意見の違いも出てくるでしょうが、それを受けて話し合えばより関わりが強まっていくことでしょう。

人生において、人と関わることは絶対に必要です。人と関わるためにはお互いが自分の基盤となる故郷・地域がベースとなるはずですが、この大会に出るまで自分でも考えもしなかったことですが、私も自分の故郷・地域について改めて考えてみたいと思います。



「誰のため？」 平賀西中学校 2年 中田 巧明

「巧明はさ、誰のために勉強してるの？」

ある日、母がそう問いかけてきました。いつも通りテスト勉強に励んでいる時です。僕は何も考えずにただ「行きたい高校があるし自分の将来を考えて勉強してる」と答えました。今にして思えば、母のこの問いかけは、僕が新しいことに挑戦していくときの大事な道しるべだったのだと感じます。この頃から僕は何事にも、“誰のために挑戦するんだろう”と考えるようになってきました。そしてその全てが、親でも先生でも誰かのためでもなく、“自分のために挑戦する”という答えにつながりました。

僕は小学生のころから書道が続けています。しかし最近では勉強や部活が忙しく、来年には受験もあります。父と母からはやめることを提案されました。そこで僕は、あの言葉を自分に問いかけてみるんです。「誰のために挑戦してるの？」書道は自分の将来に役立つかもしれないし、それになにより楽しいので挑戦しています。だから今やめる決断をせずに書道が続けています。2学期期末テスト、平川市総合学力検査。立て続けに2つのテストが終わわり、数日を過ごしたある日、国語の先生から『青少年の主張』に推薦されました。僕はテストから解放された気分でした。しかし、正直面倒くさいなと思ってしまいました。しかし結論を出す前に、あの言葉を自分に問いかけてみました。

「誰のために挑戦してるの？」

『青少年の主張』に挑戦すればコミュニケーション能力やプレゼン力が鍛えられるし、それらの能力は自分の将来の夢に役立つと思います。だから今、僕は皆さんの前で発表をしているのです。

僕には将来の夢があります。起業家になることです。その夢を叶えるためには経済の勉強をすること、コミュニケーション力、プレゼン力、問題解決能力を鍛えることなど、今から挑戦しなければならぬことがたくさんあります。そしてここでも、あの問いかけについて考えるのです。

「誰のために挑戦してるの？」

僕は自分のために挑戦しているし、これからも自分のために様々なことに挑戦していくんだと思います。自分のため。一見、自分勝手な意見だと思いがちですが、僕はそうは思いません。自分のために頑張ることだってとても大事なことだと思います。目の前の物事を自分事に思うことで、より意味のある考え方ができるようになると思います。自分のために挑戦することによって、新たな発見や違う物の見方ができるよようになるし、自分のためにも思っているように見えます。誰かのためになることだってあります。そしてなにより、誰のためであれ、新しいことに挑戦して前に進んでいくことこそが、何より大事なことです。

と僕は思うのです。

皆さんは、いや僕たちは、これから様々なことに挑戦していくと思います。そして、将来に向けてたくさんの方々に協力してほしいと思います。皆さんはどうか協力をお願いします。

「誰のために挑戦してるの？」

「経験は人生の財産」

青森県立柏木農業高等学校

2年 比内 元氣



2026年1月6日、羽田空港を飛び立って飛行機に揺られること13時間。私は、異国の地に降り立ちました。青森県農林水産部主催の『あおもり農業グローバルチャレンジ』による海外研修のスタートです。この研修は私にとって初めての海外研修であり、さらにその研修先は経済大国アメリカです。その最大都市であるニューヨークの地に足を踏み入れて、私はとても大きな感動を覚えました。ニューヨークは世界の中心ともいわれる都市で、通称“ビッグ・アップル”と呼ばれ、世界の人々を魅了している都市です。そのため私も、テレビや映画、教科書などで数多く目にしてきました。実際にその場所に立った時、それまでは分からなかった迫力とエネルギーを、全身で強く感じました。最初に強く印象に残ったのは、街に連なる高層ビル群です。マンハッタンの街を歩いていると、上空の霧に隠れてビルの頂上が見えず、自分がとても小さく感じました。タイムズスクエアでは、とても大きな電光掲示板が昼も夜も光続けており、人々の多さと街の明るさに圧倒されました。同時に、この場所に人々が集まる理由が少し分かった気がしました。

今回の研修の主な目的は、有機農産物の販売や流通について、先進地であるニューヨークで学ぶことです。ニューヨークと聞くと、高層ビルが立ち並ぶ世界的な大都市という印象があります。「農業＝農村地」と考えていた私は、農業とはあまり結び付かない場所だと思っていました。しかし研修を通して街を見回す中で、都市と農業が密接に繋がっていることを知り、その考えは大きく変わりました。農産物の生産地となる郊外のローカルスーパーに新鮮なものが売られているのはもちろんですが、実際には都市部のスーパーにも、必ずと言っていいほど有機栽培でつくられた鮮度の高いフルーツや野菜が大量に売られています。これらの農産物は、郊外の農業ができる土地で生産されたものですが、離れた都市部でも鮮度を保って美味しい状態で販売できるのは、都市部と郊外を繋ぐ流通分野が充実しているからだというところを感じました。

また農園視察では、有機栽培において土づくりがとても重要ということを感じました。土づくりで最も欠かせないのがコンポストです。コンポストとは、生ゴミや落ち葉などの有機物を微生物の力で分解し、栄養豊富な土を作り出す方法を言います。3つの農園を視察しましたが、すべての農園でコンポストを行っていました。なかには公園やグリーンマーケットなどにコンポスト用の回収容器を設置して地元の人たちから生ゴミを収集し、それを自分の農園に持ち帰り、いい土に変えるという農家さんもいました。

このほか、研修先のスーパーや農園では、年齢も国籍も異なる様々な人たちが、農産物を育てながらコミュニケーションを楽しみ、知識を共有しあっている様子を目にしました。その様子から、農業が単なる仕事ではなく、人と人を繋ぐ大事な役割を果たしていると感じることもできました。

今回の海外研修を通して、アメリカの農業についての学びはもちろんのこと、日本との違いや、ニューヨークの歴史・文化についても知ることができました。また、英語が苦手でしたが、なんとか拙い英語でコミュニケーションをとるなかで、伝えることの難しさや大変さ、伝わった時の喜びも感じることができ、コミュニケーションをとることの大切さを実感することができました。この研修を通して現地で見たこと、聞いたこと、食べたこと、感じたこと、感じたこと、私にとつ

て貴重な財産となりました。この経験を残りの高校生活で活かして、自分自身の成長に繋げられるように取り組んでいきたいと思っています。そして、これから英語を勉強して話せるようになり、またいつかニューヨークに行きたいと思っています。

『全部誇れる「良い思い出」』

青森県立尾上総合高等学校

1年 平野 里桜



私は中学1年のとき、クラスの中に入ることが怖くなり、別室登校になりました。当時の担任の先生とクラスの男の子たちとの相性が悪く、重い雰囲気になれなかったからです。

1年間、「0組」と呼ばれる、学年の先生たちの職員室ですごしていました。その中で、出られそうな授業やテストには出たり、文化祭のクラス発表や合唱コンクールにも、必死の思いで参加していました。クラスの特にやんちゃな男の子には、「1年0組平野里桜だ」と笑われたり、いきなり話しかけられて上手く返せなかったら「なんだよつまねえな」と言われたことを今でも鮮明に覚えています。それでもなんとか1年を終え、2年生になったからクラスですごすことができるようになりました。しかし、3年生の11月、またクラスに入ることができなくなりました。部活を引退し、受験が近づいてきたり、体育で笑われたことなども重なって、気持ちが不安定になってしまいました。でも、1年生のときから支えてくれた先生や、優しい友達のおかげで、最後の数日間はクラスですごし、無事みんなと卒業することができました。入試も何とか合格し、一昨年の4月、尾上高校ではない、ある全日制の高校に入学しました。その高校は、私の性格にぴったりの雰囲気です。とてもすこしやすかったです。授業は静かで、優しい先生ばかりで、友達も真面目だけど明るく、いろいろな子ばかりで、部活の先輩たちもかっこよくて、これ以上ないくらいの環境でした。

しかし、4月の終わり頃、少しずつ学校に行くのがしんどくなってきました。その学校は授業の進度が速く、1回休むだけで追いつけなくなり、内容が分からないから行けなくなり、負の連鎖になってしまいました。また、ほとんどがiPadを使用した授業で、機械が苦手な私は、より追いつけませんでした。そして当時の私は、単位や欠席数の仕組みをよく分かっておらず、気づいたらどの教科も欠席数がギリギリになっていました。とにかく授業に出なければと思い、必死で登校していました。なんと5月の下旬の部活のイベントを目標に頑張ってきましたが、イベントが終わると目標ももてなくなってしまう、糸が切れてしまいました。ここまでの約1ヶ月間は、とにかく必死だったからか、今でも記憶がほとんどありません。

家族と話し合い、とりあえずしばらく学校を休もうということになりましたが、内心すごく焦りました。「また行けなくなってしまう」「中学をなんとか越えたのに、高校でもだめだった」「やっぱり私に学校は無理なんだ」と、人生が終わったと思うくらい絶望感に襲われました。そんな私に、父は「焦らなくても大丈夫」「今はだめでもいつかはなんとかなる」と毎日声をかけてくれました。母も気分転換にいろいろなところに連れて行ってくれました。そして今の高校を辞め、別の道に進もうと決意した頃、尾上総合高校のことを知りました。私は定時制という、働きながら通う学校という印象があったのですが、学校見学に行くと、いろいろな発見がありました。先生方のサポートが手厚くて、4年かけてゆっくりにペースで勉強できることを知って、こんな高校があるのかととても驚きました。同時に、これはまたとないチャンスだ、ここに入ってまた頑張ってみたくて強く思いました。そこから少しずつ勉強し、尾上高校に入れるのを楽しみにしていました。しかし、その中で1つだけつらかったのは、前の学校で退学届にサインをするときでした。当時は苦しかったけど、やっぱり以前の学校が好きで、ちゃんと卒業したかった気持ちもあったのです。いろいろなことを乗り越え、入学試験に挑みました。当日はとても緊

張したし、不安もたくさんありました。しかし、合格したことを知った瞬間、自分の1年が全て報われたような気がしました。

そして、尾上高校での生活が始まりました。最初の数週間は、1年間のプランクがあったので、ものすごくしんどかったです。友達はやんとできるか、授業についていけないのか、タブレットの操作方法で置いていかれないか、単位はちゃんと取れるか、また通えなくなってしまうたら・・・という風に、不安がつきませんでした。でも、尾上の先生たちは困っていたらすぐ気づいてくれたので、わからなかったことがどんどんわかっていって安心しました。クラスの人もみんな優しく、すぐ話せる友達ができました。授業や機械操作も次第に慣れできて、できることが増えていくのが嬉しかったです。何より、去年1年間積み上げてきたことが全て今年につながっていることに気づきました。

今でもたまに、「あの高校で勉強していたら」と思うことはあります。形としては「退学」という、世間から見れば暗い終わり方です。でも私は、新しい一歩を踏み出すための、一種の「卒業」だったと思っています。周りのおかげで、最高の形でやめることができましたので、退学を後ろめたいとは思っていません。むしろ良い思い出であり、私の強さだと誇れます。

今、私ができる最大限の恩返しは、尾上高校で頑張っている、元気な姿を見せることです。決して無理はしすぎず少しずつ進んで、もつともつと壁を越えていきたいです。そして尾上高校を卒業できるように、まずは1年間頑張っていきます。



「忘れられない鹿児島県」

平賀西中学校
2年 工藤 美悠

今年の夏はどのように過ごしましたか。私はこの夏、平川市と鹿児島県南九州市で行っている青少年国内交流事業に参加しました。

参加したいと思っただけの見学する場所に「平和特攻記念館」があり、私は戦争の時代のことについて学びたいと思い応募しました。参加人数は最大7人その中に入れるかドキドキしていました。選ばれたと連絡が来たときはすごく嬉しかったです。早く鹿児島の子達と話してみたい、色々体験してみたいと、ワクワクがとまりませんでした。

まだ薄暗い朝、出発式を行いました。いつもならまだ寝ている時間で、そのせいか団長の話があまり聞きとれませんでした。バスに乗り出発するとき、私は恥ずかしくて母に手を振りませんでした。空港までの移動はとて短く感じました。私は飛行機に乗るのが初めてで緊張していたけどみんなが支えてくれて怖い気持ちも乗り越えることができました。目が覚めると鹿児島空港に着いていました。空港から出るともわつとした重い風が吹いていて日差しが青森と比べものにならないくらい強かったです。移動のバスは意外にも静かで私は外の景色を楽しみました。気がつくともう受け入れ式の時間で自己紹介をして、ポロシャツを交換し、写真を撮りました。受け入れ式が終わってみんなで鹿児島の子に話しかけに行きました。みんな優しくおしとやかで沢山話したいと思いました。

1日目の夜はねぶた運行をする予定で、一緒に運行するのを楽しみにしていたけど、天候が悪く中止になりました。運行は出来ないけど囃子を聞かせたいと私達は招待されました。地域の人は笛やかねを持っていて青森のねぶたのような雰囲気でした。囃子を聴いて私は感動しました。横笛の音色はとてきれいで、かねはよく響き、太鼓は力強く、すごく熱気を感じました。囃子を聴いた後はみんなで踊りました。初めて踊って少し恥ずかしかつたけどみんなで田になってワイワイするのがとても楽しかったです。夜は女子が集まって恋バナをしたり沢山話をしてお互いのことを知ることができました。

2日目の朝、私はなかなか起きられず昨日は疲れていたんだな、と感じましたが今日は特攻記念館を見学する日だったので楽しみという

気持ちが強く早く準備を終わらせられました。朝食を食べべ外を見ると雨が降っていて、午後は水遊びとバーベキューをする予定でみんな楽しみにしていましたので「晴れろー!!」とずっと願っていました。平和記念館に着き一番に私の目に入ったのはゼロ戦で使用された機体です。機体の先はボロボロで後ろ側は無くこれに乗って戦いに行くのはとても怖く残酷だと思いました。館内を見て回ると、特攻隊の人が残した遺書や身につけていた物が沢山あり、少し心が苦しかったです。大体会見終わった頃、視聴室に行き実際の映像と演説を聞きました。敵船に体当たりする映像を見て戦争の時代に生きている人の辛さが伝わって、私の目からは自然と涙が溢れていました。死ぬことが分かっているのに自ら特攻兵を希望し、日本のためと大切な人を残して空へ飛び立つのはとても無謀で意味がないことを知っていても戦いに行かなければいけない状態をつくるのは絶対にあってはなりません。しかし、今の平和があるのは勇敢な特攻兵のおかげであり、もう二度と戦争を起こさないと誓った国のおかげだと思います。私はこれからの人生を精一杯楽しもうと思います。

見学を終え、宿泊するキャンプ場に着的いた時には雨はやみ、とても気持ち晴れて水遊びを楽しみました。その後はスイカ割りをして、数センチ前で割れなくてとても悔しかつたけど楽しかったです。バーベキューはみんなで話をしながらお肉を食べ、怖い話をしたりしてとても盛り上がりお腹も気持ちもいっぱいでした。

3日目の朝、私は一番に起きられて少し嬉しかったです。昨日より早く出発し少し眠かったです。山道を上り、森を抜けた先には一面に広がる茶畑がありとても綺麗でした。お茶の手揉み体験をして、急須を使って実際にお茶をいただいたり少し苦かつたけど知覧茶の美味しさを知ることが出来ました。帰りに自分たちで揉んだ茶葉をもらいました。可愛い袋に入れてもらって、特別感がありなかなか飲めないでいるので良いことがあったら飲もうと思います。その後は神社に行きました。神社の後ろには海があり、今までで一番美しい景色でした。お昼はそうめんを食べ、タツノオトシゴハウスを見学しました。あつという間に夕方になり、お別れ会を行いました。津軽弁にほんやぐしくした紙芝居と地名クイズを披露して、すごく緊張したけどみんなが面白かつたと言ってくれてとても嬉しかったです。ビンゴ大会もして沢山話して最高に楽しかったです。私は初めて時間が止まってほしいと思います。しかし時の流れは止まることなく過ぎていき、お別れ会が終わる時間になりました。私は寂しい気持ちでいっぱいでした。3日間しか一緒に居ないのにこれほどまでに親しくなれたのは初めてだし素の自分ですごせてとても良い経験が出来たと思います。

次の日、私達が帰るときみんながおみおくりに来てくれて嬉しかったけど、冬まで会えないと思うと本当に寂しかったです。バスが出発するとき、私は見えなくなると手を振りました。その後は市長に挨拶をしてから空港に行きました。帰りの飛行機で景色を見ると思い出がよみがえってきて楽しかつたなと改めて思いました。

家に帰って私はお土産をひろげて家族に思い出話をうざいくらい話しました。私はこの4日間で友達・家族の大切さ、命の尊さ、生きることの幸せを実感し学びました。不安なときに支えてくれた友達、この事業に参加させてくださった大人のの方々、応募から準備、色々な手伝いをしてくれたお母さん。本当にありがとうございました。私はこの経験で学んだことをこれからの生活に活かしたいと思います。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。鹿児島のみんな、青森楽しみにしてで！へばなまだね！！

会員募集中!

青少年育成平川市民会議では、青少年健全育成の推進にご協力いただける会員を募集しています。次世代を担う青少年の健全育成のため、皆さまのご入会をお待ちしております。

【年会費】個人・団体ともに1,000円

青少年ひらかわ 第38号 令和8年3月17日発行

発行：青少年育成平川市民会議

事務局：平川市教育委員会 生涯学習課内

〒036-0102 平川市光城二丁目30番地1 タカシン文化センター内

TEL 0172-44-1221 FAX 0172-44-8780